

健康の日フォーラム2026



母子手帳をもつ子(パレスチナ・ガザ)



おしゃれなテヘランの街並み(イラン)

中村安秀

公益社団法人日本WHO協会 理事長

世界健康デー：過去のテーマ

(2018年以降、医学モデルから社会モデルへの転換がみられる)

年	テーマ（日本語訳）
2010年	進行する都市化と健康を考える
2011年	薬剤耐性の脅威 今動かなければ明日は手遅れに
2012年	高齢化と健康 健康であってこそその人生
2013年	血圧管理の重要性：心臓疾患・脳卒中のリスクを減らそう
2014年	節足動物が媒介する感染症から身を守ろう
2015年	食品安全：あなたの食べものはどれくらい安全ですか？
2016年	糖尿病
2017年	うつ病：一緒に話そう
2018年	ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ：誰もがどこでも保健医療を受けられる社会に
2019年	ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ：誰もがどこでも保健医療を受けられる社会に
2020年	看護師・保健師と助産師を支援しよう
2021年	より公平で健康的な世界を築くために
2022年	わたしたちの地球、わたしたちの健康
2023年	すべての人に健康を
2024年	私の健康、私の権利
2025年	健やかなはじめ、希望のある未来へ

WHO世界健康デー2026

Together for health. Stand with science
(科学に基づき、みんなで健康に)

WHOは、世界中の人々に健康を守るために科学に基づく対応を呼びかけています。

人々、動物、植物、そして地球の健康を守るための科学的協力の力を称え、「ワンヘルス(One Health)」アプローチを強く打ち出し、エビデンスを実際の行動へと結びつけるために必要な科学的成果と多分野間協力の双方に光を当てています。

<https://japan-who.or.jp/news-releases/2603-9/>



ワンヘルス (One Health)

2016年11月:北九州市

「第2回世界獣医師会-世界医師会“One Health”に関する国際会議」

ワンヘルスの理念を普及・推進させるためにアジアで初めて開催

2022年:国際機関のワンヘルス共同活動計画 (One Health Joint Plan of Action)

4つの国際機関:WHO(世界保健機関)、FAO(国連食糧農業機関)、UNEP(国連環境計画)、WOAH(World Organisation for Animal Health、国際獣疫事務局)

- ・新興または再興人獣共通感染症の流行およびパンデミックのリスク軽減
- ・顧みられない熱帯病対策:狂犬病など
- ・薬剤耐性 (AMR) の削減 (抗菌薬の7-8割は畜産のために使用されている)
- ・環境分野のワンヘルスへの統合 (プラネタリーヘルスにつながる)

セルフケアとプラネタリーヘルスが 共鳴する未来

EXPO2025大阪・関西万博イベント



19世紀の万博が「物」を見せる場であったのに対し、21世紀の万博は、私たち自身の想像力を通じて未来を「共創」する場へと進化。

「Think Globally, Act Locally」の精神で、持続可能な未来づくりを推進。

主催：日本セルフケア推進協議会 オフィシャル・パートナー：日本WHO協会

The Sence of Wonder

(『沈黙の春』で知られるレイチェル・カーソンの最後の著作)

子どもたちは、自然を畏れ、不思議に思う感受性や、人間の存在を超えたものを認識する心を持つこと、そして、地球の美しさをよく観察し、深く思いをめぐらせていく。

レイチェル・カーソンの大甥である幼いロジャーは、満月の夜に月と海と広大な夜空を眺めながら、こう囁いた。

「きてよかったね」

We need to pass a clean planet for the next generation where every child in the world will feel "I'm glad we came."

この星に生まれたすべての子どもたちが「ここにきてよかった」と思えるきれいな地球を、次世代に譲り渡したい。



『センス・オブ・ワンダー』
筑摩書房 レイチェル・カーソン
(森田真生訳 2024年)

セルフケアとワンヘルスとプラネタリーヘルスが 共鳴する未来に向けて

1. チャンプール:交じることから新しい何かが始まる。

プラネタリーヘルスやワンヘルスを推進するには、学会、行政、民間企業、NPO/NGOが連携・協働して、超学際的なアプローチと基礎科学を重視した科学技術イノベーションが必須である。

2. 次世代を担う人々が中心に未来を考える。

プラネタリーヘルスやワンヘルスの未来像を描くときに、子育て世代や思春期・若年成人のAYA世代の主体的参画が必要条件である。

「健康の日フォーラム」のネットワークの広がりに期待したい！